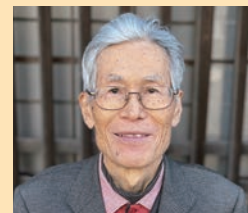


白子の歴史文化を活かす会

四日市の「白永の追分」で東海道と分岐し、伊勢へと続く道筋は、伊勢(参宮)街道と呼ばれます。街道沿いの白子地区(江島・白子・寺家)は、江戸時代には紀州藩領と一部は小笠原領として栄え、伊勢湾海運の中心地だった白子港(白子)には廻船問屋の蔵が建ち並んでいました。「白子の歴史文化を活かす会」(大杉 淳会長)は、郷土の歴史や文化を活用しようと、多彩な活動を続けています。



斎藤 富茂(とみしげ)さん

お問い合わせ

「白子の歴史文化を活かす会」事務局
TEL 090-7860-3453
(斎藤 富茂さん)

「白子の歴史文化を活かす会」の活動拠点は、伊勢街道沿いに建つ「伊達商家」です。令和2年に国の登録有形文化財となった主屋は、木造2階建ての重厚な造りで、往時の繁栄ぶりを彷彿とさせています。伊達家は江戸時代には肥料・油・米などの商いをしていたと伝わる廻船問屋で、地域の人々から「油屋忠兵衛」の通称で親しまれています。今回は同商家にお邪魔して、事務局長の斎藤 富茂さん、元会長の城野 高潔さん、会員の佐藤 貴宜さんにお話を伺いました。

——会の設立は平成26(2014)年と伺いましたが、きっかけについて教えてください。

ください。

斎藤…実は、この伊達商家が設立のきっかけなのです。白子地区には、歴史的にも文化的にも意義のある史跡や建物や古文書などに加えて、伊勢型紙や鈴鹿墨という伝統産業もありますが、近頃は姿を消すものも多く、もったいないなと心を痛めていました。そんな時、長い間空き家となっていた伊達家を見て、所有者である伊達さんと「これは地域の宝、何とかして後世に残さなければ」と話をしたので、そこで有志を募り、会を設立したところ、「大切にしてくれるなら」と伊達さんから許可をいただき、保存活用が決まりました。設立後は、皆で掃除や補修を繰り返しながら、会の活動拠点としています。

——これだけの商家を掃除・補修するのは大変ですね。

佐藤…そうなのですが、二方で、古文書類が見つかるという嬉しいこともありまして。今は「三重県総合博物館」にも協力いただいて、少しずつ解説しているところです。この商家が江戸時代に別の場所に建てられ、明治時代に今の場所に移築したことなどもわかってきました。

——今後も新たな事実が解明されそうですね。ほかにはどんな活動をしていらっしゃいますか？

斎藤…現在の主な活動は、年に2、3回開催する「公開歴史講座」、3月の「伝わるひな飾り展」、7月の「めざそう語り部学習」、そして8月の「夏休み寺子屋」で

す。「公開歴史講座」は、郷土史に詳しい会員を講師にして、テーマに沿って講演会を開催しています。「伝わるひな飾り展」では、地域に伝わる雛人形や吊るし雛などを展示するので、とても華やかになります。最近では着物を着て散策を楽しむ「きもの de おさんぽ」実行委員会とコラボして、着物姿の来場



「伝わる ひな飾り展」※

者も増えました。

——それは、賑やかそうですね。地域の方々とも連携しているのですか。

城野…地域の歴史や文化遺産は、私たち会員だけが保存活動をしていても限界があります。地域の人たちが関心を持ってくれるように情報発信するのも重要だと感じています。そのための活動の一つが「めざそう語り部学習」です。現在、語り部組織作りに向けて皆で勉強中です。また「夏休み寺子屋」は子どもたち対象で、糸車や置き炬燵、棹杵などの昔ながらの道具を実際に見て、当時の暮らしぶりを

想像してもらっています。これは、親世代にも関心を持っていただける機会になっていると思います。

斎藤…城野・佐藤…活動のほとんどは地道で手間がかかりますが、協力いただいている所有者の伊達さんのためにも、一過性で終わらず、今後も続けていきたいと思っています。また、参加いただける方を募集しています。

——ありがとうございます。

お話からは、郷土を誇りに思ふ熱い気持ちと決意が伝わりました。

インタビュー…中村 真由美



「伊達商家」主屋外観



往時の繁栄ぶりを伝える主屋内部の様子



昔ながらの道具



向かって左から佐藤 貴宜さん、斎藤 富茂さん、城野 高潔さん